



ラッパズイセン 黄金色の春が来た！



あべ 菜穂子

た愛嬌あいきょうのある長い口をひよいと持ち上げている。シエークスピアは「冬物語」で、「まだ燕つばきも飛来しないころ、3月の風を魅了し、まどわす花」だと詠んだ。春を呼ぶ花、である。



が国こそ、原産地」とする主張も根強く、ローマ人やサクソン人が大陸から持ち込んだとする、より説得力のある外来説に挑戦している。

イギリスの暗く陰鬱な冬が、花の人氣にひと役買っているように思う。この花

ロマン派の詩人、W・ワーズワースは、北西部・湖水地方の湖のほとりで、優に1万本を超すラッパズイセンが果てしなく咲き誇る光景を見て、打ちのめされるほどの感動を覚えた。

「ラッパ、パッパ、ラッパズイセンが街に来了。黄色いペチコートに緑のドレスの装いで」。子どもたちの軽快なわらべうたの響きが、ラッパズイセンの開花を教えてくれた。

戸外では、花が柔らかな陽射しをひと筋もらさず吸い込もうと、ラッパに似

3月半ば、国中の住宅の庭や街角、公園や野原、草原が、どこもかしこもラッパズイセンの黄金色に染まる。イギリス人はこの花が心底、好きだ。

学名は「偽ナルシサス」

でいわば「ニセ水仙」なのに、この国ではラッパズイセンが水仙の「本命」。「わ

笑し合うのだ。私たちは表に出、朗らかに談

そして、私の心は喜びに満ち、水仙とともに踊り出す（「水仙」より）
魂を癒やし、命の泉となる花である。
（ロンドン在住ジャーナリスト、写真も）
4月から第1日曜に掲載します